

【同窓会だより】

## 46 回生同窓会報告

山口 和彦(46 回生)

昭和 47 年 3 月に卒業し、今は年号も変わり平成 20 年…京都市右京区徳大寺町(別名 円町)にあった京放専(京都放射線技術専門学校)を後にし、はや 36 年、学友会からの名簿をあてに全国へと飛び立った 48 名の第 46 回生(そのなかには住所不明の学友も居ましたが)に声を掛け、20 名程の仲間が集まることとなりました。



「46 回生の皆様お元気でしょうか?」の誘いの言葉で 36 年ぶり初めての同窓会。長い年月を経て名前は覚えているが、果たして顔は判るのか共に学んだもの同士、会えることを楽しみに平成 20 年 10 月 11 日大阪駅(梅田)に集まりました。

期待にたがわず顔が判りません。まず名前の確認が挨拶がわりでした。しかし少し話すとともに学生時代の面影と重なり、話はずみませんでした。

大阪駅で同窓生を待ち受けてくれた幹事の話によると、ニコニコと近づいてくる人を見て同窓生か!?!と思えば人違いで他の人へ近づいていったとか、ご苦労様でした。

場所を中国料理「マルシン」に移し恩師山田先生、体育の寺地先生を迎え、集まった 19 名の仲間たちと共に美味しい酒と中国料理に舌つつみをうち、話に花を咲かせました。懐かしい山田先生のお話、学生時代のそのままで、今年退官されたとはとても思うことが出来ませんでした。先生いつまでもお元気でいてください。我々一同大変お世話になりました。寺地先生とはスキーやスケートと思い出多い授業の話で盛り上がりました。

♪ 苦難の道を おしひらき

学徳共に みがきつつ ♪

校歌の様にあとひと息頑張ろう、そして又あいましょう!と誓いました。

遠方より参加してくれた宿泊予定組 8 名、二次会で大阪北新地に場所を変え、飲み、唄い、少ない時間で 36 年の年月を取り戻しました。36 年!…頭の毛も薄くなり皺も増えます。でもみんな喋っていると 36 年前の面影が戻ると同時に京都の街も懐かしく思い出され、最後は“また会おう” “じゃまた会おう”と別れました。

参加者

山田先生、寺地先生、

安藤俊郎、梅田義和、枝川昇、生座本義広、澤田和男、高木研二、中隅勲、西治光、西川徹、  
広田陽一、福本芳人、増原和広、三木新樹、美藤賢三、餅三喜雄、安田幾夫、山口和彦、  
吉見喜久雄、和田広司 (略敬称)

以上